

# 夏季セミナー2015 予稿集

**国際日本研究センター** 東京外国語大学  
国際日本研究センター主催

## 夏季セミナー2015

# 言語・文化・社会

—国際日本研究の試み—

2015年7月14日～17日(火-金) 10:00～17:30

会場: 東京外国語大学府中キャンパス  
研究講義棟102室、103室

◆JR中央線「武蔵境」駅～西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分  
◆京王電鉄「飛田給」駅北口～多磨駅行京王バス10分

**「サマースクール研究発表会」**  
7月15・16日(水・木)14:20-17:30 研究講義棟104～106室

主催 / Organized by

東京外国語大学国際日本研究センター  
International Center for Japanese Studies  
Tokyo University of Foreign Studies

2015年7月14日(火)～7月17日(金)  
東京外国語大学府中キャンパス研究講義棟 102、103、104、105、106 室  
Tuesday 14 July to Friday 17 July, 2015  
Room102, 103, 104,105,106 Research and Lecture Building  
Fuchu Campus, Tokyo University of Foreign Studies

## プログラム / Program

7 月 14 日 (火) Tuesday 14th July

会場 研究講義棟 1F 102, 103

Venue 102, 103 1F, Research and Lecture Building

14:20 ~ 15:50 (102)

【ガイダンス】夏季セミナー2015・サマースクール 2015 の履修方法について……………6  
Guidance: How to Sign Up for the Summer Seminar 2015 and Summer School 2015  
友常 勉 (東京外国語大学)  
TOMOTSUNE Tsutomu (Tokyo University of Foreign Studies )

16:00 ~ 17 : 30 (102)

【公開講義】 人口からみる戦後の日本……………6  
Open Seminar : A Demographic Perspective on Postwar Japan  
春名 展生 (東京外国語大学)  
HARUNA Nobuo (Tokyo University of Foreign Studies )

16:00 ~ 17 : 30 (103)

【公開講義】 日本語教科書はどこが変わり、どこが変わっていないか？  
—過去を振り返り、将来の日本語教材を考えるために—……………7  
Open Seminar:  
The Evolution of Textbooks for Japanese Language Learning over the Past Half Century:  
What Has Changed and What Has Remained the Same?  
野田 尚史 (国立国語研究所)  
NODA Hisashi (National Institute for Japanese Language and Linguistics )

7 月 15 日 (水) Wednesday 15th July

会場 研究講義棟 1F 102,  
Venue 102, 1F, Research and Lecture Building

10:10 ~ 10:55 (102)

『源氏物語』における囲碁と人間関係の作意……………8

The Human Relationships and Conception Through Go in The Tale of Genji

金 鐘德 (韓国外国語大学校)

KIM Jong duck (Hankuk University of Foreign Studies)

10:55 ~ 11:40 (102)

白秋文学にある台湾描写—台湾への眼差し—……………9

The Taiwan Related Descriptions in Kitahara Hakusyu's Literature:

His Perspectives on Taiwan

范 淑文 (国立台湾大学)

FAN Shu Wen (National Taiwan University)

12:40 ~ 13:25 (102)

ドイツ語と日本語の受動文……………10

Passive Sentences in German and Japanese

成田 節 (東京外国語大学)

NARITA Takashi (Tokyo University of Foreign Studies)

13:25 ~ 14:10 (102)

タイの中級日本語学習者の聴解力についての調査……………11

The Investigation of Intermediate Thai JFL Students' Listening

Comprehension: Focus on Academic Japanese

タサニー・メーターピスィット (タマサート大学)

Tasanee METHAPISIT (Thamasat University)

7 月 16 日 (木) Thursday 16th July

会場 研究講義棟 1F 102,103

Venue 102, 1F, Research and Lecture Building

10:10 ~ 10 : 55 (102)

年少者に対する日本語教育—JSL 対話型日本語能力測定法 DLA の活用—……………12

The Japanese Language Education for Non-Native School Children and  
the Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language

小林 幸江 (東京外国語大学)

KOBAYASHI Yukie (Tokyo University of Foreign Studies )

10:55 ~ 11 : 40 (102)

e-learning 教育における日本語の習得研修—自立学習を中心として……………13

A study on the acquisition of Japanese in e-learning education:  
Focusing on Auonomous Learning

尹 鎬淑 (サイバー韓国外国語大学校)

YOUN Ho Sook (Cyber Hankuk University of Foreign Studies )

12:40 ~ 13 : 25 (102)

日本語の名詞が疊語の形で擬態的な意味を表す問題について

—コーパスの役割も同時に考える—……………14

How the Epizeuxis in Japanese Noun Clause Give Imitative Expression:  
the Function of Japanese-Chinese Corpus

徐 一平 (北京外国語大学)

XU Yi Ping (Beijing Foreign Studies University)

13:25 ~ 14 : 10 (102)

社会言語学からみた現代韓国社会の構造 ……………15

Modern Korean Society on the View Point of Sociolinguistics

李 吉鎔 (韓国中央大学校)

LEE Kil Yong (Chung-Ang University )

7月17日(金) Friday 17th July

会場 研究講義棟 1F 102,103  
Venue 102 1F, Research and Lecture Building

10:10 ~ 10 : 55 (102)

耽美という名を背負って— 葉石濤「春怨」を読む……………16

The Pursuit of an Aesthete: Reading Yeh Shih-tao's *Shunen*

蕭 幸君 (台湾東海大学)

HSIAO Hsing Chun (Tunghai University)

10:55 ~ 11 : 40 (102)

一茶と季語……………17

Kobayashi Issa and Seasonal Words

スコット・ヒスロップ (シンガポール国立大学)

Scot HISLOP (National University of Singapore)

12:40 ~ 13 : 25 (102)

日本人の死生観と死後の世界観

Japanese Philosophy of Life and Death and Japanese Philosophy of Afterlife…………… 18

徐 翔生 (国立政治大学)

HSU Hsiang Shen (National Chengchi University)

13:25 ~ 14 : 10 (102)

詩歌から震災後の時代を考える—近代日本のもう一つの震災後……………19

Rethinking the Aftermath of Another Earthquake in Modern Japanese History:

from the Point of View of the Poetry and Songs

中野 敏男 (東京外国語大学)

NAKANO Toshio (Tokyo University of Foreign Studies)

# 講義概要 Abstracts

7月14日(火) \_102室

**【ガイダンス】**

**夏季セミナー2015・サマースクール2015の履修方法について**

友常 勉 (TOMOTUSNE Tsutomu)

東京外国語大学 (Tokyo University of Foreign Studies)

夏季セミナー、サマースクールを通しての目標と修得すべきスキルなどを説明する。また、ジャーナルの投稿を視野に入れた論文の書き方、参考文献のまとめ方などもレクチャーする。さらに今回来日した海外の院生に自己紹介をしていただき、国内の院生と交流を図る。

7月14日(火) \_102室

**【公開講義】**

**人口からみる戦後の日本**

**A Demographic Perspective on Postwar Japan**

春名 展生 (HARUNA Nobuo)

東京外国語大学 (Tokyo University of Foreign Studies)

現在の日本では、少子化と高齢化が関心を集めていますが、この授業では、より長期的な視点に立って、社会と人口の関係について考えます。といたしますのも、高度経済成長や都市化、あるいは核家族の増加など、戦後の日本を彩った社会の変容には、じつは人口の変動が深く関係しているのです。とりわけベビーブームの発生と、職を求めて地方から都市へと向かったベビーブーム世代の移動が、大きく影響しています。普遍的な人口の動態と重ね合わせて日本社会の歩みを顧みると、独特に見える日本の経験も、ほかの国々と比較しやすくなるでしょう。

【公開講義】

日本語教科書はどこが変わり、どこが変わってないか？  
—過去を振り返り、将来の日本語教材を考えるために—

The Evolution of Textbooks for Japanese Language Learning  
over the Past Half Century:  
What Has Changed and What Has Remained the Same?

野田 尚史 (NODA Hisashi)

国立国語研究所 (National Institute for Japanese Language and Linguistics)

50年ほど前から現在までの日本語非母語話者のためのさまざまな日本語教科書を分析し、どのような部分がどのように変わってきたのか、また、どのような部分が基本的に変わっていないのかを考えます。たとえば、次のようなことです。

- (1) 日本語教科書の会話文は、状況設定も使われている日本語も不自然なものから自然なものに少しずつ変わってきた。
- (2) 日本語教科書は、汎用的な目的を持つ総合的なもののほかに、学習する技能や学習者を特化したものが少しずつ増えてきている。
- (3) 特に初級教科書では、文法を重視し文法を中心に構成する形は、長い間、基本的に変わっていない。

このように日本語教科書の変わってきた部分と変わらない部分を分析することにより、過去を振り返るとともに、日本語教科書はこれからどのように変わっていくかを予想し、将来の日本語教材のあるべき姿について提案を行います。



7月15日(水) \_102室

## 『源氏物語』における囲碁と人間関係の作意

### The Human Relationships and Conception Through Go in The Tale of Genji

金 鐘徳 (KIM Jong Duck)

韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)

中国発祥の囲碁は平安時代の男女の室内娯楽として広く親しまれた遊びであった。帚木巻に登場する空蟬と軒端萩が対局する場面は源氏の垣間見によって描かれている。また竹河巻では玉鬘の娘大君と中君が碁を打つ場面を夕霧の息子蔵人小將が覗いて恋心を抱く。宿木巻では今上天皇が薫を相手に碁を打ち女二宮を薫と結婚させようとする。それから手習巻では少將尼が浮舟を相手に碁を打って、浮舟の才能を碁聖大徳に比喻する。すなわち、『源氏物語』に登場する囲碁は単純な娯楽ではなく、囲碁を打つ人間関係によって長編物語の作意となる。

今回のセミナーでは『源氏物語』の登場人物が碁を打つ場面を中心に、物語における機能と作意を究明してみたい。

白秋文学にある台湾描写 —台湾への眼差し—

The Taiwan Related Descriptions in Kitahara Hakusyu's Literature  
—His Perspectives on Taiwan—

范 淑文 (FAN Shu Wen)

国立台湾大学 (National Taiwan University)

佐藤春夫など台湾訪問の経験のある作家に比べ北原白秋の場合は、台湾訪問関係の文学創作が少ないためでもあろうか、その台湾訪問紀行文の研究はかなり限られている。そのうち、台湾人研究者陳萱の研究はもっとも本格的な論究であり、厳しい指摘である。確かに、「さうした明るい亜熱帯への原色版風の期待が、何か裏切られたものを私に感じさせた。」(「臺灣紀行」)という、白秋が基隆に着いた時の強烈な描写は印象的である。しかし、果たして「日本の植民地台湾支配に対し疑問を抱くことは全くなかった」という陳萱の厳しい批評ほど白秋が支配者の姿勢で台湾、所謂「本島人」を見ていたのであろうか。

本稿では、上記の問題点を意識しながら、それらの紀行文の考察を通して、詩人白秋の台湾への眼差しを見出し、より客観的な立場で白秋の台湾像にアプローチすることを試みる。

7月15日(木) \_102室

## ドイツ語と日本語の受動文

### Passive Sentences in German and Japanese

成田 節 (NARITA Takashi)

東京外国語大学 (Tokyo University of Foreign Studies)

主に視点の概念を軸にして、日独語の受動文の基本的な違いを示す。日本語では「被影響」という特徴を持ち、日本語に固有とされるタイプの受動文を、ドイツ語では受動表現の中核を占める **werden**-受動文を中心に挙げる。

視点について「視座」と「注視点」の区別を明確に意識することにより、「日本語の固有の受動文は視座に関して能動文と異なるのに対して、**werden**-受動文が注視点に関して能動文と異なる」という違いを明らかにする。その上で、そのような違いがテキストの中で具体的にどのように表れているか、主に小説を題材にして提示する。

## タイの中級日本語学習者の聴解力についての調査

### The Investigation of Intermediate Thai JFL Students' Listening Comprehension: Focus on Academic Japanese

タサニー・メーターピスイット (Tasanee METHAPISIT)

タマサート大学 (Thamasat University)

日系企業の増加に伴い、日本語能力をもつ人材の採用ニーズが高まっている。職場ではコミュニケーション能力が必要不可欠であることから、最近では日本語能力試験 N3 を取得した日本語学習者が、生の日本語を聞いたときにその内容をどの程度正確に理解できるかを調査した。調査では、身近なテーマについて、1時間の講演を聞かせたうえで、その内容を分担して一人当たり約7分の内容を文字化させ、さらにL1に要約するという課題を課し、その課題遂行過程を観察した。対象者が聴解のなかで未知の語彙に遭遇した時、どのような物的リソースを用い、どのように問題に対処しているかについて考察を行う。

7月16日(木) \_102室

年少者に対する日本語教育  
—JSL 対話型日本語能力測定法 DLA の活用—

The Japanese Language Education for Non-Native School Children and  
the Dialogic Language Assessment for Japanese as a Second Language

小林 幸江 (KOBAYASHI Yukie)  
東京外国語大学 (Tokyo University of Foreign Studies)

2014年4月1日より「学校教育法施行規則の一部改正に伴い、全国の小中学校で「特別の教育課程」として日本語が教えられることになった。そこでは、初期の日本語指導に加え、教科学習についていけるための日本語力(Academic Language Proficiency) (以下、ALP)の育成が指導の大きな柱となる。発達の途中にある年少者にとりALPは欠かせない言語能力である。その力を測定・評価し学習につなげるものとして、2013年に「外国人児童生徒の為のJSL対話型アセスメントDLA」(以下、DLA)が開発された。特別教育課程に日本語教育が組み込まれたことにより、今後DLAは年少者の日本語教育に必須のものとなっていくだろう。

そこで、本講義では主に小学校、中学校を中心に、学校教育の中での年少者に対する日本語教育の現状、年少者の日本語習得とDLA, 年少者の日本語能力の評価の3点について述べる。

e-learning 教育における日本語の習得研究  
— 自立学習を中心として —

A Study on the Acquisition of Japanese in e-learning Education-  
Focusing on Autonomous Learning

尹 鎬淑 (YOUN Ho Sook)

サイバー韓国外国語大学校 (Cyber Hankuk University of Foreign Studies)

日本語教育パラダイムが変化している中、日本語学習者の効果的かつ効率的な日本語教育に役立つ方  
案としてe-learning の導入の必要性が唱えられるようになり、これに学習効果に関する研究が必要と  
なってきた。

e-learningの発展のためには、学習コンテンツや教育方式等がe-learning に最適化され、従来の教  
室での学習と同等の学習効果が得られるコンテンツを開発し実践していく必要があるが、その際に最  
も重要視されるのが、学習者がいかにして学ぶかという第二言語習得研究である。

さらに、e-learning における第二言語習得として、従来の教授者中心の教育に留まらない学習者の  
自立性を重視した学習方法が求められる。

本発表では、e-learningにおける第二言語としての日本語の習得法を検討し、e-learning 日本語教  
育の自律学習の有効性を探る。

7月16日(木) \_102室

日本語の名詞が疊語の形で擬態的な意味を表す問題について  
—コーパスの役割も同時に考える—

How the Epizeuxis in Japanese Noun Clause Give Imitative  
Expression: the Function of Japanese-Chinese Corpus

徐 一平 (XU Yi Ping)

北京外国語大学 (Beijing Foreign Studies University)

日本語の名詞には「子供子供した小動物」や「田舎田舎した部落」といったような形式で使われる現象がある。このように使われた場合には、「如何にも何々らしい様子をしている」というような擬態的な意味が発生する。しかし、どのような名詞にはこのような使われ方ができるのか、どうしてこのような現象が現れたのかなどの問題については明らかにされていない。

本講義は、コーパスから検索されたデータを利用してこの問題を明らかにすると同時に、コーパス研究の役割、特にあまり一般的ではないが、しかし研究する価値のある言語現象を究明するときの役割についても論じてみる。

## 社会言語学からみた現代韓国社会の構造

### Modern Korean Society on the View Point of Sociolinguistics

李 吉鎔 (LEE Kil Yong)

韓国中央大学校 (Chung-Ang University)

「知るだけでは不十分、知の活用が必要である。意志だけでは不十分、実行が必要である。」ゲーテの言葉である。社会が大学(または学問の成果)に期待するところは、学知の社会への還元・実装であろう。

社会言語学は、その目標の一つとして、「社会問題の解決へのことばの面からのアプローチ」ということをあげているので、ゲーテのことばと親和性が高い。

本講義では、まず、社会言語学の目的および中心テーマを簡略に紹介し、次に、自身の行っている研究を、特に臨床性に焦点を当てて紹介する。その後、研究と社会活動のつながりについて、

- (1) 民主化のための全国大学教授協議会活動
- (2) 多文化子ども人権教育プログラムの実施

を紹介する。

最後に、社会言語学から見た現代韓国社会の構造について次の3点に焦点を当てて分析する。

- (a) 韓国の対日意識は、社会支配層の「親日コンプレックス」による現代韓国社会の構造内在的問題である。
- (b) 「見せかけの民族主義」によりウチでは「好日」、ソトでは「嫌日」という心理的両面性が形成されている。
- (c) 「빨리빨리(パリパリ、急げ)の文化・家族利己主義・整形大国」という現代韓国の社会文化的現象は、公共性の崩壊により「私的資産」に頼らざるを得なくなった結果である。



7月17日(金) \_102室

耽美という名を背負って— 葉石濤「春怨」を読む

The Pursuit of an Aesthete: Reading Yeh Shih-tao's *Shunen*

蕭 幸君 (HSIAO Hsing Chun)

台湾東海大学 (Tunghai University)

日本植民地時代に生まれた台湾作家葉石濤の「春怨」は長い間、耽美という名のもとで読まれてきた。そのため、葉石濤自身はその著作『台湾文学史』において、台湾社会への関心の薄さで自己批判さえも行っている。しかし、このような葉石濤の自己批判の背後には、戦後の台湾における日本語世帯の著作に課された枷があることは言うまでもない。また、「春怨」を仔細に読んでいくと、作者が台湾に向ける眼差しは必ずしも欠如しているとは言いがたい。

本発表は、「春怨」における台湾社会への関心があるかいなかというよりも、この作品が〈耽美〉というレッテルが貼られたために狭められてきた読まれ方に、改めて問うてみたい。

## 一茶と季語

### Kobayashi Issa and Seasonal Words

スコット・ヒスロップ (Scot HISLOP)

シンガポール国立大学 (National University of Singapore)

小林一茶は俳人として有名で、海外でもかなり人気がある。しかし学者たちはしばしばその季語の使い方を批判する。確かに芭蕉や蕪村の優れた発句に比べれば、一茶は一瞥して季語を大事にしなかったに見える。

今度の発表は一茶の「雪」と「雁」を含める発句を取り上げて、一茶の季語概念を追究しようとする。一茶の季語の使い方は乱雑ではなくて、一種の詩的なロジックがあると思われる。たとえば雪国出身の一茶には「雪」が伝統由来の優雅的な抽象概念というより、むしろ一種の危機感が込められた具体的な「もの」であった。一方一茶の「雁」の発句を正確に理解するために東アジアにおける「雁」についての伝統的な概念をまず掌握する必要があると思われる。

7月17日(金) \_102室

## 日本人の死生観と死後の世界観

### Japanese Philosophy of Life and Death and Japanese Philosophy of Afterlife

徐 翔生 (HSU Hsiang Sheng)

国立政治大学 (National Chengchi University)

死生観は国や民族によって異なるものである。死後の世界観も宗教によってまた様々である。周知のように、日本人は古くから死の問題に関心があり、死を美化することすらあった。このような日本人の死生観と死後の世界観はどのようにしてあらわれ、定着していったのであろうか。

本報告では、まず古代から現代までの文芸作品を例としつつ、その中に描かれた死の思想を探りながら、日本人の死生観の具体相を明らかにしたい。次に日本人の死後の世界観に如何なる宗教の要素がみられ、それが日本人の死生観にどのような影響を与えたのかについて論及したい。

本報告によって日本人の死生観と世界観の解明、及び日本の思想文化研究に少しでも貢献することができれば幸いである。

詩歌から震災後の時代を考える  
—近代日本のもう一つの震災後

Rethinking the Aftermath of Another Earthquake in Modern Japanese  
History: from the Point of View of the Poetry and Songs

中野 敏男 (NAKANO Toshio)

東京外国語大学 (Tokyo University of Foreign Studies)

東日本大震災から四年余りが過ぎて、あらためて震災後の時代と社会を考えようとするとき、近代日本が経験したもう一つの大震災である「関東大震災」とその後の時代が重要な参照項になるというのは明らかだろう。そこで本報告が注目したいのは、かの関東大震災後という状況下で「詩歌」がもった精神史上の意味についてである。東日本大震災下であらゆるメディアが震災情報のみに集中したとき、それでも巷にわずかに流れていたのは傷ついた心を癒すはずの詩や歌であった。それに気づいて振り返ると、関東大震災のあった1920年代もまた、新しい童謡や民謡や詩の生まれた「詩歌の時代」であったのだ。しかもこの時代に生まれた「心優しい詩や歌」は、つぎの30年代である戦争の時代には「猛々しい軍歌や愛国詩」に系譜的につながっていく。それはどうして可能だったのだろうか。報告では、かの時代の詩歌の営みに内在して、その「道」を考えたい。

== MEMO ==

東京外国語大学国際日本研究センター

「夏季セミナー2015 予稿集」

- Summer Seminar 2015 Abstract -

---

発行:2015年7月14日

編集者・発行者 東京外国語大学国際日本研究センター

代表者 野本京子

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 アゴラ・グローバル 2 階

電話/FAX:042-330-5794 E-mail: [info-icjs@tufs.ac.jp](mailto:info-icjs@tufs.ac.jp)

URL <http://www.tufs.ac.jp/common/icjs/jp/>